



氏郷まつりにて、原田二郎旧宅の前を通る冬姫(蒲生氏郷の正室)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年は「飛躍」と「向上」を象徴されている卯年。皆さんはどのようにお迎えでしょうか。

私たち松阪歴史文化舎は、元気いっぱい。「温故創新」のポリシーのもと、真摯に過去に学び、「飛躍」と「向上」を感じさせる新しい価値の創造に努め、松阪とこの地域の発展の貢献していきたいと考えております。

本年もよろしくお願いいたします。



餅つきウサギをかたどった置時計。長谷川家 11代定矩の収集品。



今回の展示のみどころ!

旧長谷川治郎兵衛家

長谷川家動物づくし展

令和4年12月20日(火)～令和5年3月19日(日)

長谷川家にのこる8万7千点の資料のなかには、動物をモチーフにした作品や動物について記述された江戸時代の版本などがあります。本企画展ではこれらの資料から当時の人々と動物たちの結びつきをご紹介します。さまざまな動物たちがいますのでぜひ会いにきてください!



張り子【昭和】

イヌはお産が軽いことや多産であることから、イヌの張り子玩具は安産のお守りとして広まった。

【学芸員による展示解説】 2月4日(土)、3月4日(土)
各日11時より20分程度/参加費無料(当日の入館料が必要です)

旧小津清左衛門家

小津家植物づくし展

令和5年1月24日(火)～4月23日(日)

人々と植物の関係は深く、植物を調理の具材や衣服などの原料や材料として利用する一方で、鑑賞や画題として描くといった楽しみにも用いてきました。本企画展では、草花が描かれた作品や植物で作られた道具などさまざまな用いられかたをした植物たちをご紹介します。



利休形菊置上文庫【江戸時代後期】

桐木地の表面に胡粉を盛り上げて菊の文様を表した小箱。千家十職指物師 駒沢利齋作。

【学芸員による展示解説】 2月11日(土)、3月11日(土)
各日11時より20分程度/参加費無料(当日の入館料が必要です)

原田二郎旧宅

紀州藩の歴史書『南紀徳川史』

令和4年11月29日(火)～令和5年4月2日(日)

『南紀徳川史』は、初代藩主徳川頼宣が元和5年(1619)に和歌山に移封してから14代茂承が東京転住に至るまでの253年にも及ぶ紀州藩の歴史や法制などが記されています。本企画展では、松阪にのこる『南紀徳川史』の写本や関連資料を展示し、その内容や歴史書できるまでの過程などをご紹介します。



『南紀徳川史』【明治期】(松阪市郷土資料室蔵)

『南紀徳川史』は歴史の記述のみに留まらず、服飾の図式なども挿絵で紹介している。

【学芸員による展示解説】 1月28日(土)、3月25日(土)
各日11時より15分程度/参加費無料(当日の入館料が必要です)

トピックス

松阪カルチャーストリート

11月6日から同月20日の間、「松阪カルチャーストリート」が開催されました。

このイベントは、松阪市の魅力を芸術の力で再発見しながら楽しむ芸術祭です。今回で2回目の開催。

会場は、重要文化財の施設や武家屋敷、継松寺、新しく魚町に開館したサイトミュージアムをはじめ市内のカフェやギャラリー、商店街など。もちろん私たちの3文化施設も参加しています。

会場では、地元ゆかりのみならず県外の作家の作品も展示し、多くの入館者の皆さんに芸術と地元松阪の魅力を味わっていただきました。



ギターコンサート

11月26日、旧小津清左衛門家で松野世志則さんによる「ギターコンサート」が開催され、美しいギターの調べを楽しみました。



ナイトツアー・詩吟

12月2日、3日の両夜、旧長谷川治郎兵衛家では「ナイトツアー」が開催され、竹灯りに照らされた座敷や庭園は静謐な雰囲気にもまれ外の喧騒とは別世界でした。また4日には「詩吟かんしょう」も催され、田島麟芳さんの吟詠と健康についてのお話に興味深く耳を傾けました



おしらせ

◆ 旧長谷川治郎兵衛家の資料目録をWEBで公開しています

平成20年度から平成29年度にかけて行われた旧長谷川治郎兵衛家の資料調査の成果『長谷川家文書調査報告書』(3冊)、『長谷川家資料調査報告書』(3冊)に掲載されている資料目録をWEBで公開。なお、検索の利便性を高めるために「古文書」、「書籍」、「生活道具」に分類しています。

各資料には、IDを設けましたので、問い合わせ等のときに活用していただければ幸いです。

<https://matsusaka-rekibun.com/mokuroku/>

旧長谷川治郎兵衛家書籍目録

ID	整理番号	書名	責任表示	出版者・製作者	出版年
SHOS_000001	西1-1	尾張名所図会	文圃岡田啓、梅原野口通直、同業小田切善江画	慶應久兵衛【ほか書】	天保15 [184]
SHOS_000002	西1-2	伊勢参宮名所図会	【即興月輪・画】秋屋藤島貞	慶應孫兵衛【ほか書】	寛政9 [179]
SHOS_000003	西1-3	江戸名所図会	斎藤長秋【画】長谷川雪旦【画】	佐藤伊三郎、御倉伊八、宮田六左右衛門	天保5-7 [183]
SHOS_000004	西1-4	肥後名所図会	高市志友編述; 武内藤亭編纂; 西村中和図画; 渡辺玉	帯屋伊兵衛	文化8-嘉永4 [18]

江戸ぼんわか見てある記

その1 隅田川の都鳥

名にし負はば いざこと問はむ 都鳥
わが思ふ人は ありやなしやと

この歌は、平安前期の歌物語『伊勢物語』の第9段「東下り」に収録されている歌で、在原業平が東国への旅の道中、隅田川で目にした鳥の名前を都鳥と聞いて詠んだとされています。都鳥（ユリカモメの通称）は、羽は白く、嘴と足が朱色のカモメで、古来から詩歌や絵画の題材となり、隅田川焼のモチーフにも使われていました。

隅田川焼は、文政2年(1819)頃、佐原菊塙が江戸向島百花園（墨田区東向島）内で始めた楽焼で、隅田川周辺の土を使用して製作されました。都鳥を描いた器は土産物として売られ、特に都鳥の香合は人気を博したといわれています。

長谷川家11代定矩(可同)の餅舎コレクションの一つに、隅田川焼小皿が残されています。この皿は都鳥をかたどったもので、外底に「百花園」の印が捺されています。餅舎は、大正9年(1920)に定矩が長谷川家の敷地の西隅に建てた建物で、ここに全国各地から収集した餅に因むもの数千点を陳列・公開しました。

「餅舎」の名前は世間に広く知られており、松阪を訪れた著名人や風流人は必ずここに立ち寄り観覧しましたが、昭和16年頃にやむなく閉館となり、建物は昭和63年頃には取り壊されました。

隅田川焼のほかに、都鳥を題材にしたものとして、向島名物「言問団子」の皿があります。「言問団子」の名前は、前出の在原業平の歌に因んで明治初期に名付けられたもので、この団子を載せる皿に都鳥が描かれています。「言問」の名を持つ団子を味わい、都鳥の絵を見て楽しむ…「東下り」の場面が目浮かぶようです。

旧長谷川治郎兵衛家の企画展「長谷川家動物づくし展」（令和5年3月19日まで開催）では、餅舎コレクション・都鳥の小皿をはじめ、絵画や漆器などに表現された動物たちを展示しています。是非ご来館いただき、様々な動物たちの魅力をお楽しみ下さい。（中戸）



【言問団子】



【隅田川焼小皿】



歴史文化3施設のご案内

【開館時間】 9:00~17:00

(16:30までにご入館ください)

【休館】 水曜日(祝日の場合は翌平日)
/年末・年始

【連絡先】

◆旧長谷川治郎兵衛家

Phone: 0598-21-8600

◆旧小津清左衛門家

Phone: 0598-21-4331

◆原田二郎旧宅

Phone: 0598-23-1656

発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 松阪市魚町1653

Phone: 0598-21-8600 (事務所)

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com

HP https://matsusaka-rekibun.com/

